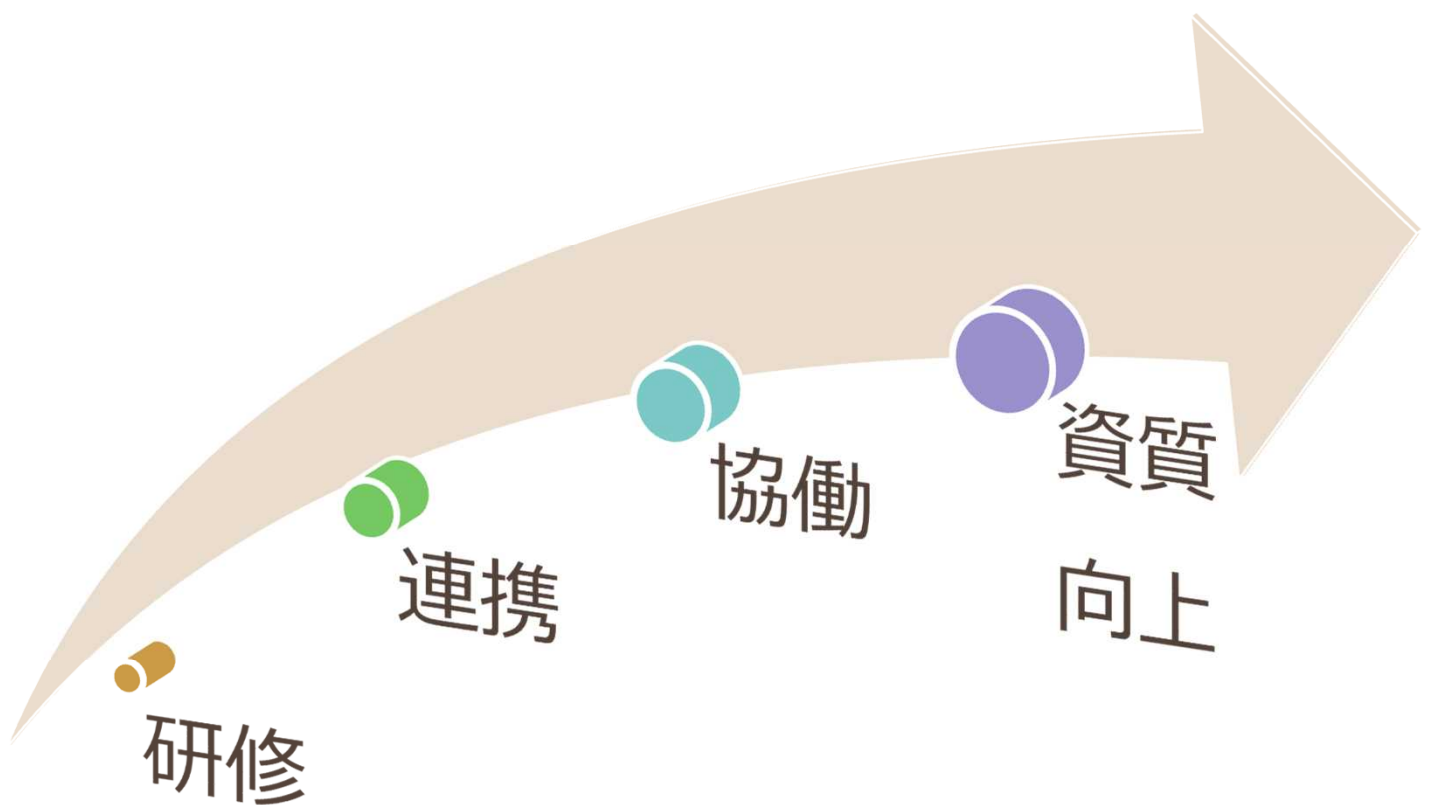


平成27年度
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム
ミドルリーダー研修カリキュラム開発事業
委嘱事業成果報告書



2016年3月
静岡大学教育学研究科附属
教員養成・研修高度化推進センター

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	指導主事の力量向上開発プログラム-Kigai Juku-
プログラムの特徴	<p>本申請プログラムでは、静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センター（以下、静岡大学高度化センター）と静岡県教育委員会が連携・協働して、指導主事の学校経営に関する識見を高めるとともに、次期学習指導要領を見据えた訪問指導の在り方の示唆を得る研修モデルカリキュラムを提案することを目的とした。</p> <p>対象は、静岡県教育委員会、静岡県総合教育センター、静東・静西教育事務所、静岡県内の市町教育委員会に所属する指導主事を想定した。研修内容は、教育委員会関係者や大学教員等による「ミニ講座」と、参加者が主体的に教育実践等について考察する「アクティブ・ラーニング」を交互に実施する。</p> <p>上記の実施に当たって、静岡大学教職大学院が主催する「教職大学院運営委員会」の中で事業の評価及び改善に向けて協議を行い、平成28年度以降も継続的に実施できるための体制構築について検討を行った。</p>

平成 28 年 3 月

機関名 静岡大学

連携先 静岡県教育委員会

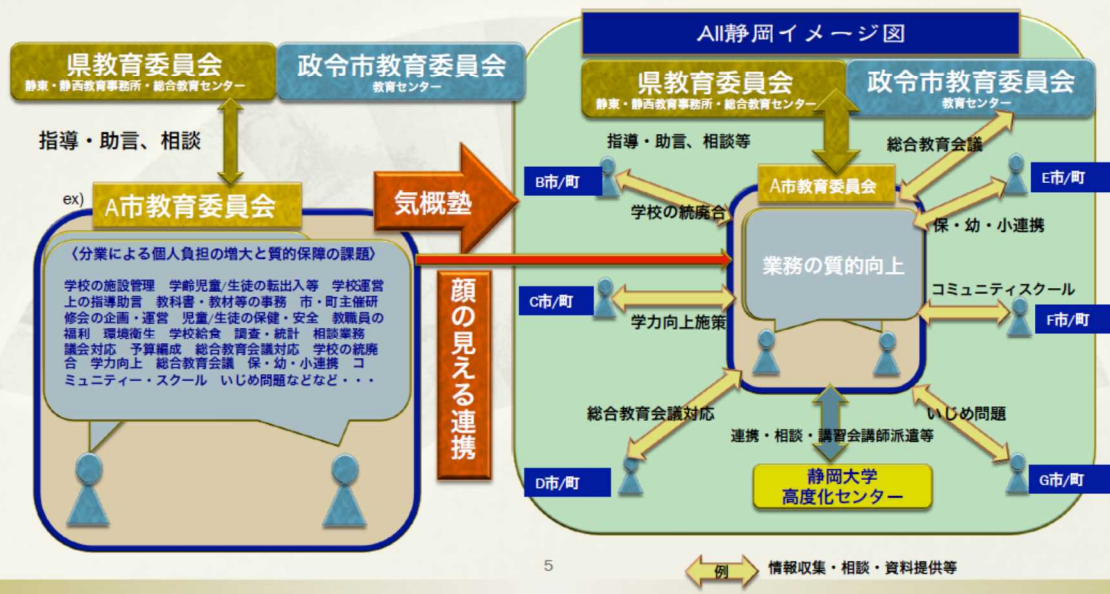
指導主事の力量向上研修プログラム実施

開催回数・日程：セッション年5回（5月・7月・9月・11月・1月）



市町のメリット All静岡イメージ図

多様な情報ツールの活用による機能化・能率化と業務の質的向上



5

I 開発の目的・方法・組織

1 開発目的

静岡大学と静岡県教育委員会は、「教育センターと教職大学院との連携による学校改革力育成プログラム」(平成 24 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム)及び「教育センターと教職大学院との連携による学校改革力育成プログラム」(平成 25 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム)の助成を受けて、大学と教育委員会の連携・協働による研修カリキュラム開発を進めてきた。これらにより、教職大学院の授業及び教育センターの研修をベースにしながら、主に教務主任や研修主任など、学校内におけるミドルリーダーとしての使命感や学校経営に対する関心の喚起等に資することができた。

静岡大学教職大学院の授業や静岡県総合教育センターのミドルリーダー対象の研修は、推薦を受けた者や希望した者だけが受講することができる。そのため、日常的に学校と関わりながら、学校内のミドルリーダーの育成に寄与している指導主事が果たす役割は重要であると考えられる。しかしながら、これまで指導主事の力量・向上を目指した授業や研修は行われてこなかった。

そこで、本申請プログラムでは、指導主事の力量・向上に資する教員研修モデルカリキュラムを、静岡大学と静岡県教育委員会が連携・協働して開発した。

2 開発の方法

平成 26 年度から、静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センターが発足した。高度化センターは大学と教育委員会の連携等の窓口となる部署であり、月に 1 回程度、センター員会議を開催している。

その中で、指導主事の力量・向上に資する研修プログラム開発の必要性がセンター員から提案された。上記提案について静岡県教育委員会と協議を行い、静岡県教育委員会としても指導主事を対象とした宿泊研修を検討していることが分かった。そこで、大学と教育委員会が連携・協働して研修プログラム開発を行うことで同意を得た。

3 開発組織

静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センターのセンター員のうち、機動力を高めるために 5 名のセンター員を中心とした実行委員会を組織して、連絡を密に取りながら研修プログラムの開発及び実施を行った。研修終了後にはセンター員会議で概要を報告するとともに、研修評価担当者のコメントをふまえて次回以降の研修会の運営へ活かした。

また、静岡大学教職大学院が主催する教職大学院運営委員会にて、連携先である静岡県教育委員会から直接評価をしていただき、次年度以降の開催の在り方について協議した。

表1 組織体制

所属・職名	氏名	担当・役割
＜静岡大学＞		
教員養成・研修高度化推進センター長	梅澤 収	総括責任者
教員養成・研修高度化推進副センター長	三ッ谷 三善	実行委員会委員 (連絡調整担当)
教員養成・研修高度化推進センター員	山口 久芳	実行委員会委員 (気概塾担当)
〃	渋江 かさね	実行委員会委員 (ラウンドテーブル担当)
〃	中村 美智太郎	実行委員会委員 (事務・経理担当)
〃	島田 桂吾	実行委員会委員 (事務・経理担当)
〃	山崎 保寿	研修評価担当
〃	谷 健二	研修評価担当
〃	武井 敦史	研修評価担当
〃	岡本 康哉	研修評価担当
〃	石上 靖芳	研修評価担当
〃	伊田 勝憲	研修評価担当
〃	藤井 基貴	研修実施担当
〃	亘理 陽一	研修評価担当
〃	長谷川 哲也	研修企画担当
〃	塩田 真吾	ホームページ担当
＜静岡県教育委員会＞		
教育監	水元 敏夫	連携担当
義務教育課・課長	林 剛史	連携担当
教育総務課・課長	池田 和久	連携担当
静岡教育事務所・所長	唐國 宏章	連携担当
静岡西教育事務所・所長	羽田 明夫	連携担当
静岡県総合教育センター・所長	杉本 寿久	連携担当

II 開発の実際とその成果

1 「指導主事研修～気概塾～」

(1) 目的

- ① 静岡県及び各市町の教育をリードする気概と志を持ち高度な教育実践力を身につけたリーダーの育成
- ② 21世紀の地域教育を担う学校づくりに参画する力量の育成
- ③ 教育委員会の運営に関する情報交換
- ④ 教育委員会・学校改善に資する人的ネットワークの構築
- ⑤ 県教育委員会、政令市・市町教育委員会、大学の連携によるに対応した先進的で創造的な学校教育の推進

(2) 塾発足の背景

現在においても様々な課題が山積している教育界は、今後は更に厳しい状況が予想されている。このような時代であるからこそ、子ども達に夢と希望を育む学校経営の担い手であるリーダーは、地元の教育をリードする気概と高い志を持ち高度な教育実践力を身につけなければならないと考えた。

さらに、これからのリーダーは人的ネットワークを駆使し自らの教育実践を広い視野で見つめ、構築する柔軟性・創造性や編集力が求められる。本塾は、各市町の指導主事同士の顔の見える連携による人的ネットワークの構築と高度な教育実践の担い手としての幅広い教養と識見を身につける場となることを願って設立した。

(3) 講座内容

講座は、4回の短期日程であることから、図1のように、1講座約60分のミニ講座とし講座数を増やすとともに「顔の見える連携」を意図しグループワークを毎回取り入れた。

また、講座内容と講師については、指導主事の識見を広めることを主眼において、高度化センターで協議を行い決定した（表2を参照）。



図1 「指導主事研修～気概塾～」の1日のスケジュール

表2 「指導主事研修～気概塾～」のスケジュール

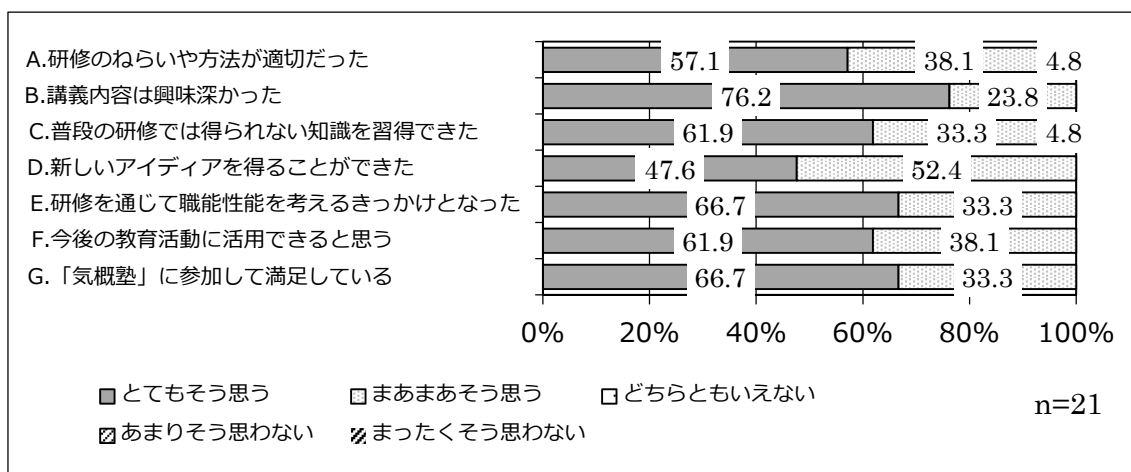
1回目〈4月30日(木)〉 JR 静岡駅ビル (13:30-17:00)		
講座1	「指導主事に期待すること」	林 剛史(静岡県教委義務教育課長)
講座2	「学校訪問の視点とふるさとIQ」	山口 久芳(静岡大学特任教授)
2回目〈8月26日(水)〉 浜松アクトシティー (9:30-16:00)		
講座3	「不祥事に思う」	渥美 利之(弁護士、浜松市教育員)
講座4	「学校の不祥事対応指導について」	杉山 真也(浜松市教職員課副参事)
講座5	「教育政策の最新事情」	島田 桂吾(静岡大学講師)
講座6	「リーダーシップの哲学」	中村 美智太郎(静岡大学講師)
3回目〈11月28日(土)〉 三島市日本大学国際関係学部 (9:30-16:00)		
講座7	「特別支援教育の現状と課題」	香野 毅(静岡大学教授)
講座8	「学習科学から見た学びの仕組みと次期学習指導要領の授業設計」	益川 弘如(静岡大学准教授)
講座9	「教育委員会制度」	三ッ谷三善(静岡大学教授)
4回目〈1月29日(金)〉 静岡市ホテルアソシア (13:30-16:30)		
講座10	「これからの学校と求められるリーダーシップ」	武井 敦史(静岡大学教授)

(4) 成果と課題

1) 受講者数

第1回25人、第2回31人、第3回44人、第4回23人、のべ123人

2) 参加者のアンケート結果から (第4回参加者のみ)



3) 課題

幅広い知見を得る教養的なプログラムにするか、あるテーマに沿った全4回のプログラムに一貫性を持たせるかは検討が必要である。また、本塾の趣旨をさらに反映させ、企画段階から県教委や政令市の参画並びに他大学との連携をいかに図るかが今後の課題である。

【参考】

静大教高 第072号

平成27年4月1日

静岡県教育委員会教育長 様
各市町教育委員会教育長 様

静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センター長

気概塾の開催について（案内）

日ごろは、静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センターの取組に、御理解を賜り、誠にありがとうございます。

昨年度発足した当センターは、調査研究をはじめ、学校の校内研修の支援等、様々な取組を実施してまいりました。この間の皆様の御協力にあらためてお礼申し上げます。

さて、本年度、新たな事業として、静岡県及び各市町の教育をリードする気概と志を持ち高度な教育実践力を身に付けたリーダーの育成等を目的とし、指導主事を対象とする研修講座「気概塾」を開催いたします。

具体的には、講座を年間4回計画しております。各講座の内容、講師等、詳細については、別添のチラシ及び資料を御参照ください。

ついでには、下記により、申し込みを受け付けますので、指導主事の派遣について、御高配のほど、よろしく願いいたします。

なお、本事業は、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会及び静岡県都市教育長協議会、静岡県町教育長会の御理解をいただいていることを申し添えます。

記

- | | | | | | |
|---|--------|--------------------------------------|-------|-----------|----------------|
| 1 | 開催日と会場 | 第1回 | 平成27年 | 4月30日（木） | JR 静岡駅ビル（パルシェ） |
| | | 第2回 | 平成27年 | 8月26日（水） | アクトシティ浜松 |
| | | 第3回 | 平成27年 | 11月28日（土） | 日本大学国際関係学部 |
| | | 第4回 | 平成28年 | 1月29日（金） | ホテルアソシア静岡 |
| | | 原則として、各回、同じ方の参加をお願いします。 | | | |
| 2 | 募集対象 | 各教育委員会の指導主事 | | | |
| | | 但し、教育長の推薦があれば、教頭・校長及び行政職員の参加も可です。 | | | |
| 3 | 申込方法 | 別添の参加申込用紙に記入し、FAX 又はメールでお申し込みください。 | | | |
| 4 | 申込先 | 静岡大学教員養成・研修高度化推進センター | | | |
| | | FAX 番号 054（238）3055 | | | |
| | | メールアドレス ekoudouka@ipc.shizuoka.ac.jp | | | |
| 5 | 締め切り | 平成27年4月15日（水） | | | |

担当 教員養成・研修高度化推進センター

電話 054（238）3055

気概塾 参加申込用紙

ふりがな						年齢
氏名						歳
所属教育委員会	教育委員会				役職	
参加予定日	4月 第1回	8月 第2回	11月 第3回	1月 第4回	ラウンドテーブル (オプション)	※ 下の欄にそれぞれ ○ をお付け下さい ※ 未定の場合は空欄で結構です ※ ラウンドテーブルはオプションです
情報交換会への参加席	第1回(4月)の情報交換会にご参加				ご欠	※ いずれかに ○ をお付け下さい ※ 参加費は5,000円程度の予定です
e-mail	@					
電話番号	()					
住所	〒					

<タイムテーブル>

日程	時間	会場	program									
			13:00~13:15	13:15~14:30	14:30~14:40	14:40~15:40	15:40~16:30	17:30~				
1	4月30日(木) 13時00分~16時30分	静岡大学 L棟3階	開講式 ・山崎教授挨拶 趣旨/日程説明(山口)	講話 ・林剛史義務教育課長(60) ・質疑/応答(15)	休憩	講話 Doilemethod 「学校訪問の視点」 山口	〈GW〉 ・講話を受けて 訪問指導の観点について の意見交換	・情報交換会 (市内に移動)				
2	8月26日(水) 9時30分~16時	浜松 教育委員会会議室	日程説明 山口	講話 (不祥事に思う) 瀧美弁護士	質疑	休憩	〈GW〉 ・学校の不祥事対応 指導について 2市発表(依頼)	講話 教育政策の最新事情 島田	〈GW〉 ・講話を受けての 各市町の取り組み 状況について意見 交換	14:15~14:25 休憩	14:25~15:25 講話 (Leadershipの哲学) 中村	15:25~16:00 〈GW〉 ・振り返り
3	11月28日(土) 9時30分~16時30分	三島	日程説明 山口	講話 (特別支援教育 関係) 香野	質疑	休憩	〈GW〉 ・各市町の特別支 援についての現状 と対策等意見交換	講話 (21世紀型スキル) 益川	〈GW〉 ・講話を受けて 各市町の学力向上 施策についての意 見交換	14:45~15:00 休憩	15:00~16:00 講話 (教育委員会制度) 三ツ谷	16:00~16:30 〈GW〉 ・振り返り
4	1月29日(金) 13時30分~16時30分	静岡大学 L棟3階	日程説明 三ツ谷	講話/演習 これからの学校 と求められるリ ーダーシップ 武井	〈演習〉/休憩 含む	休憩	開講式 挨拶/講話 梅澤センター長	修了証授与	・情報交換会 (市内に移動)			

気概塾

*県・各市町の指導主事を対象にした塾

顔の見える連携による業務の質的向上を目指して

〈目的〉

- 1 静岡県及び各市町の教育をリードする気概と志をもち高度な教育実践力を身につけたリーダーの育成
- 2 21世紀の地域教育を担う学校づくりに参画する力量の育成
- 3 教育委員会の運営に関する情報交換
- 4 教育委員会・学校改善に資する人的ネットワークの構築（例 コミュニティー・スクール 学校の統廃合 学力向上等）
- 5 県教育委員会、政令市・市町教育委員会、大学の連携による21世紀の時代に対応した先進的で創造的な学校教育の推進

年間日程

1回目	4月30日(木) 13時00分～	開講式 講話(2)とGW	静岡市	JR静岡駅ビル7F
2回目	8月26日(水) 9時30分～	講話(3)とGW	浜松市	アクトシティ2Fコンgresセンター
3回目	11月28日(土) 9時30分～	講話(3)とGW	三島市	日本大学国際関係学部三島駅北口校舎
4回目	1月29日(金) 13時30分～	講話(1) 閉講式	静岡市	ホテルアソシア

静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センター

気概塾

2 「実践研究ラウンドテーブル in 静岡」講座

(1) 実践研究ラウンドテーブルとは

実践研究ラウンドテーブルとは、少人数（6名程度）で「互いの実践について、じっくり語り、聴き取り、考え合う」ことを通して、実践について学びあう方法であり、場である。「学校拠点方式」の教師教育に長年取り組んでいる福井大学が、「重要な支柱」のひとつとして展開してきた。その特徴のひとつは、学校教育に限らず、さまざまな領域や立場の人が地域を超えて集い、語られる実践に興味をもって聴きあって学びあう点である。

静岡大学では、2013年度より「実践研究ラウンドテーブル in 静岡」（以下、静岡ラウンド）を年1回開催しており、今回で3回目となる。開催の経緯は下記のとおりである。教員の養成と研修に関し、大学は主に前者を引き受けてきた。その状態を脱し、教育委員会と連携して「養成・研修統合型の教師教育システム」を構築する布石として始めた試みのひとつが、静岡ラウンドである。学校マネジメント力の育成を志向する教員だけではなく、その他教員、教育委員会職員、大学教員、大学生、社会教育関係者など、子どもの学びや育ちに関わりを持つ人びとを対象としている。このような人たちが取り組みを報告し合うことを通して、互いの取り組みへの理解を深めると共に、ゆるやかなネットワーク形成の機会を提供することを意図している。

(2) 「実践研究ラウンドテーブル in 静岡 2015」の概要

今回の静大ラウンドは、2015年11月23日（月）10時から16時に、ホテルアソシア静岡で実施した。主催は、静岡大学教育学部、教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センター（以下、高度化センター）である。福井大学教職大学院、教師教育改革コラボレーションとの共催で、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会の後援を得た。参加者は89名であり、内訳は、現職教員（現職院生含む）19名、学校管理職4名、研究者38名、社会教育関係4名、病院・看護関係1名、行政職・指導主事17名、学部生3名、大学院生1名、その他2名であった。

プログラムの流れは、下記の通りである。①オープニングセッション [10:00~10:20]、②ミニ講演『「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(中間まとめ)の背景と展望』講師：藤原文雄氏（国立教育政策研究所）[10:20~11:00]、③ラウンドテーブル報告Ⅰ（自己紹介10分、報告40分、意見交換30分）[11:10~12:30]、④ラウンドテーブル報告Ⅱ（報告40分、意見交換30分）[13:30~14:50]、⑤ミニシンポジウム「‘Act Globally, Nationally & Locally’を志向した教員養成の高度化をめざして——実践研究ラウンドテーブル in 静岡 3年間の軌跡」シンポジスト：梅澤収氏（静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センター長、静岡大学教育学部前学部長）、松木健一氏（福井大学教職大学院教授）[13:30~14:50]、⑥クロージングセッション [15:55~16:00]。このうち③と④については、14のグループで実施した。各グループに報告者を2名配置した。教職大学院学校組織開発領域の中では、2年生5名

がアクションリサーチ等について報告を、学校組織開発領域教員の山口久芳氏が概観について報告した。

- ・古山浩志（静岡大学教職大学院2年／磐田市立豊田中学校）「人とのつながりで成長してきた教員人生」
- ・高塚和弘（静岡大学教職大学院2年／菊川市立菊川西中学校）「学校が地域とともに子どもたちを育てるための関係性の形成に向けて—教職大学院生としての実践を通して—」
- ・法月良輔（静岡大学教職大学院2年／焼津市立焼津西小学校）「カリキュラムマネジメントの一事例—学年部経営に主眼を置いた実践—」
- ・本荘文康（静岡大学教職大学院2年／三島市立山田小学校）「幼小連携における『相互理解』とその先にあるもの—アクションリサーチを通して—」



当日の様子

(3) 今後に向けて

シンポジウムの際に静岡市教育長の高木雅宏氏より、以下のコメントをいただいた。①ラウンドテーブルは日頃の教職大学院の授業につながっているか、②ラウンドテーブルの第1回目から第3回目までのつながりという点はどのようになっているか。これらのコメントを基に、「教員養成の高度化」の一環としてのラウンドテーブルの今後を考えたい。

教師と学校を支える 学びあうコミュニティを培う

実践研究ラウンドテーブルin静岡2015

2015.11.23 (Mon) 10:00~16:00 (AM9:30受付開始)
ホテルアソシア静岡4階「カトレア」(JR静岡駅北口徒歩1分)

教育をふり返し
未来へつなぐ

ラウンドテーブルとは
子どもの学びを支える教師や地域住民や学生らが
経験や知恵を交流しあいながら学びあう場です
子どもの学びにかかわるおとなたちが
所属や地域を超えて出会い
豊かな関係性を編みながら
取り組んできた実践を語り聴きあうことをとおして
「これから」を展望することにつなげていきます

21世紀型能力とESD

学校段階間の接続

学びのセーフティネット

チーム学校

カリキュラム・マネジメント

コミュニティ・スクール

教育委員会改革

教職大学院

教員養成の高度化

Designed by Yamaguchi

〈主催〉 静岡大学教育学研究科附属教育養成・研修高度化推進センター、静岡大学教育学部
お問い合わせ先: ekoudoka@ipc.shizuoka.ac.jp

〈共催〉 福井大学教職大学院/教師教育改革コラボレーション

【後援】 静岡県教育委員会/静岡市教育委員会/浜松市教育委員会

■ プログラム

- 10:00~10:20 オープニングセッション
- 10:20~11:00 ミニ講演「『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について』
(チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会 中間まとめ)の背景と展望」藤原文雄氏(国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官)
- 11:10~12:30 ラウンドテーブル報告Ⅰ(自己紹介10分、報告40分、意見交換30分)
- 12:30~13:30 昼食
- 13:30~14:40 ラウンドテーブル報告Ⅱ(報告40分、意見交換30分)
- 14:50~15:50 ミニシンポジウム「‘Act Globally, Nationally & Locally’を志向した教員養成の高度化をめざして——実践研究ラウンドテーブル in 静岡 3年間の軌跡」
<シンポジスト>
・梅澤収氏(静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センター長、静岡大学教育学部前学部長)
・松木健一氏(福井大学教職大学院教授)
- 15:50~16:00 クロージングセッション

☆ラウンドテーブル

少人数のグループ(7名程度)で、関係性を編みつつ、実践を語り聴き、学びあいます。

- ・年齢や所属や立場が異なる人びととの学びあいを、実りあるものにするためには、お互いを尊重して参加することが大切です。
- ・途中参加や退出は、できる限りお控えください。

■ お申し込み

- ・静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センターのホームページ(<http://www.ed.shizuoka.ac.jp/koudoka/>)より、お申し込みください。
- ・定員は40名です(先着順です)。

■ そのほか

- ・会場には昼食をお持ち込みいただけません。お弁当を実費(1000円)でご用意いたします。ご希望の方はお申し込み時に申請をお願いいたします(当日のお申し込みは受け付けておりませんのでご了承ください)。
- ・会場周辺には飲食店がありますので、外食も可能です。
- ・お申し込み後、やむを得ない事情でご参加が難しくなってしまった場合は、ご連絡をお願いいたします(連絡先: ekoudoka@ipc.shizuoka.ac.jp)。
- ・会場の住所は静岡市葵区黒金町56です。

Ⅲ 連携による研修についての考察

(1) 連携を推進・維持するための要点

第1に、研修の目的や意義を大学と教育委員会が双方のメリットを共有する点である。今回の事業は大学側が教育委員会へ働きかけることから始まった。「指導主事研修～気概塾～」については、大学が県内市町教育委員会から「大学まで研修へ出かけるのは負担である」という声に応じる形で「出張講座」という形式を採用した。また、「実践研究ラウンドテーブル」は、立場を超えて「語り聴き合う場」を構築することが「学び続ける教員」を支えるシステムの1つとして認識する土台を築きつつある。

第2に、大学と教育委員会が定期的に情報を共有する点である。「指導主事研修」は既存の教職大学院運営委員会を評価検証の場として活用しただけでなく、参加者を交えた情報交換会を実施し、インフォーマルな場の方が「本音」が出やすくなるとともに、大学と教育委員会だけでなく、参加者にとっても大学や教育委員会に対する心理的な距離が縮まり、さらに連携を深める可能性を感じることができた。これらの関係づくりが「実践研究ラウンドテーブル」の開催にも良い影響を与えることができたと考えられる。

(2) 連携により得られる利点

第1に、大学と教育委員会が補完的な役割を担える可能性がある点である。今回の事業の1つである「指導主事研修」は、当初は大学に勤務する実務家教員が「指導主事研修を受けた記憶がない」というアイデアから生まれたものである。一方、静岡県教育委員会はちょうど今年度から指導主事研修を企画していることが分かった。そこで大学と教育委員会が協議を進める上で、教育委員会は初任の指導主事を対象に、大学は学校に管理職として戻る直前の指導主事を対象とすることで棲み分けを行うことで、それぞれの役割の補完的な役割を担う体制を構築する土台ができたと考えられる。

第2に、大学と教育委員会の双方の考え方をすることで信頼関係が築かれる点である。特に、今回の事業は教育委員会に勤務経験のある実務家教員が調整役となり、双方の思いを丁寧に取り入れながら事業を進めることができた。そこから、双方の事情を勘案する姿勢が生まれ、信頼関係をより深めることができた。

(3) 今後の課題等

第1に、事業の継続性である。教育委員会側の強い要望で次年度も本事業を実施する方向で調整しているが、来年度予算の見通しが持ちにくい状況の中で、いかに追加予算をかけない形で実施可能かを模索する必要がある。

第2に、事業の体系性である。本事業は今年度から実施したため、まずは広くテーマを設定した。ただ、将来的には授業科目としての開設を志向していることから、カリキュラムの体系化を検討していく必要がある。さらに、学び続ける教員を支えるキャリアシステムへの位置づけも明確化することで、「教員育成指標」にも適用できる形を模索していきたい。

IV その他

[キーワード]

指導主事 気概塾 実践研究 ラウンドテーブル 高度化

[人数規模]

「指導主事研修～気概塾」 D. 51人以上

「実践研究ラウンドテーブル in 静岡 2015」 D. 51人以上

[研修日数（回数）]

「指導主事研修～気概塾」 4日間

「実践研究ラウンドテーブル in 静岡 2015」 1日

【問い合わせ先】

静岡大学

教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センター

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836

TEL/FAX 054-238-3055

Mail: ekoudoka@ipc.shizuoka.ac.jp

平成 27 年度 教員研修モデルカリキュラム開発プログラム
ーミドルリーダー研修カリキュラム開発事業ー
委嘱事業成果報告書

発行日 平成 28 年 3 月 18 日

研究
担
当
者

梅澤収（総括責任者）・山崎保寿・三ッ谷三善・武井敦史・渋江かさね・谷健二・山口
久芳・岡本康哉・石上康芳・伊田勝憲・藤井基貴・塩田真吾・亙理陽一・長谷川哲也・
中村美智太郎・島田桂吾

連携機関 静岡県教育委員会

報告書編集 静岡大学教育学研究科附属教員養成・研修高度化推進センター

協
力

田中 奈津子 （教員養成・研修高度化推進センター学術研究員）
河合 美保 （教員養成・研修高度化推進センター学術研究員／静岡大学大学院博士課程）
大瀧 綾乃 （教員養成・研修高度化推進センター学術研究員／静岡大学大学院博士課程）

2016年3月発行



国立大学法人

静岡大学

National University Corporation
Shizuoka University